



説教要旨 「人と人との接着剤」

ヨハネによる福音書15章1～10節

イエス様はわたしたちに呼びかけます。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」。「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」(5節)。

「どうしてこんな目に…」と問いかけざるを得ない状況にあったとしても、それでもなお神さまはわたしを見捨ててはいないのだと聖書は私たちに示しています。わたしたち人間はわがままで、良い状況にあるときは神さまが自分を守ってくれていると素直に受け入れることができます。けれども、自分の思いとは異なる状況、とりわけ悪い状態に追い込まれたとき、「神さまなんていない」とか「神さまは自分を見放したに違いない」とか、そんなことを考えてしまうのです。そのような時、イエス様がつなげてくださったはずの神さまと自分とのつながりを、自分の側から断ち切ろうとしているのではないのでしょうか。

木から枝へと養分が流れ、そして豊かに実を結ばせます。何がどうなってその結果にたどり着くのか、肉眼では確認できません。わたしたち人間と神さまとの関係もそういうものなのだといエス様は教えてくださっています。目には見えないけれどもそこに確かに通い合うものを、わたしたちは『愛』と呼んでいるのです。『愛』は目では確認できません。しかしこの『愛』というものが、わたしたちと神さま、そしてわたしたち人間同士を結ぶ唯一の接着剤なのです。イエス様という木から、枝であるわたしたちに送られてくる養分が『愛』です。この『愛』が人と人とを、そしてイエス様と、神さまとわたしたちとをさらに強く結びつけ、わたしたちに豊かな実りを結ばせるのです。

新型コロナウイルスの蔓延によって、直接会うことがはばかれる状況にあるからこそ、わたしたちは、イエス様にしっかりとつながって、『愛』という養分をたっぷりと吸い上げなければなりません。この『愛』によってこそ、わたしたち同士が強く結びつけられているからです。